



石川さわ子

道議会
レポート

安心・共生の21世紀を！



ごあいさつ

札幌市議12年の経験を活かし、道議会議員としての活動をスタートすることができました。札幌市の「都市力」を活かした市町村支援、そして道内各地にゆかりがある札幌市民みなさまの声を道政に反映し、もっと、身近な道政へと変えていきます。

ご支援よろしくお願いたします。

石川さわ子

2023年 秋号 発行：北海道議会 市民ネットワーク北海道 ◆ホームページ <https://snet21.jp/>
〒060-0041 札幌市中央区大通東2丁目15-1 TEL 011-219-0112 FAX 011-219-0113



大好きな北海道・もっと元気に

石川さわ子 プロフィール

- 1958年 旭川市生まれ
- 77年 北海道立旭川東高等学校卒業
- 80年 北海道教育大学札幌分校 養護教員課程中退
- 2011年 札幌市議会議員に初当選
- 11～23年 札幌市議会厚生委員、新型コロナウイルス感染症対策調査特別委員等を歴任
- 2023年 北海道議会議員に初当選

[現在] 1 期目、北海道議会環境生活委員、産炭地域振興・エネルギー調査特別委員、石狩湾新港管理組合議会議員、認定NPO法人カラカネイトンボを守る会顧問、北海道版SDGs研究会代表

2023年第2回定例道議会 (6/22～7/14)

議会活動の報告

◆2023年度一般会計補正予算、北海道地球温暖化増資対策基金条例など議案26件の他、特別支援学校・学級等への教員等の適切な配置を求める意見書等7件が可決されました。補正予算には次世代半導体の国産化を目指す「ラピダス」の拠点整備等に1億2,000万円、保険適用外となる不妊治療の医療費等助成に6,100万円などが盛り込まれました。しかし、財政規模に占める借金返済額の指標である実質公債費比率は18.9%と47都道府県中、最悪レベルであり、財政の健全化が急務です。

◆初めての一般質問をおこないました。(質問時間20分、6/30)

- 分権自治の基本認識について
 - 分権改革の課題について
 - 振興局の現状評価について
 - 道と札幌市の政策連携について
- 「核のゴミ」問題について
 - GX脱炭素電源法の評価について
 - 概要調査への移行問題について
- 子どもの権利条例の制定等について
- 柔軟剤仕上げ材等による健康被害について
- 遺伝子組み換え作物等の問題について



道議会本会議場で一般質問を行う石川さわ子



▼切り取り、郵送にてご意見をお聞かせください。

切手はカンパでお願いいたします

060-0041

石川さわ子 行き

北海道議会・市民ネットワーク北海道
北海道議会議員

札幌市中央区大通東2丁目15-1
サラサビル4F

住み慣れた地域で、安心して自分らしく暮らしたい

— 2023年 第2回 定例道議会 石川さわ子の一般質問から抜粋 —

●子どもの権利条例の制定について

質問 厚生労働省によると、自殺をした児童生徒の人数は2022年500人を超えて過去最大、児童虐待の通告数も過去最大となるなど子どもを取り巻く状況は極めて深刻です。

多様な背景をもつ子どもの意見をしっかりと聞き、権利侵害に悩み苦しんでいる子どもが一人で悩みを抱えることなく気軽に相談でき、救済されるよう、北海道子どもの権利条例を制定すべきですが、いかがか。

答弁

子どもの未来づくり審議会子ども部会やユースプランナー制度など、様々な場を活用しながら、子どもたちの権利が守られ、意見の尊重や表明しやすい環境づくりに取り組んでいく。

●北海道と札幌市の政策連携について

質問 道と札幌市がこれまでの枠組みを超えて視野を全道に広げ、市町村や地域の支援策、活性化策を強力に講じるべきと考えます。そこで、これらを推進するしくみとして、知事と札幌市長を両トップにした「道・札幌市政策連携戦略会議」を新たに設置してはどうか。

答弁

本道が抱える様々な地域課題の解決のためには、市町村との連携力は不可欠であり、中でも、札幌市との連携は重要と認識。道では、これまでも新型コロナウイルス対策や雪害への対応、本道の人口減少対策に係る取組など、様々な分野で札幌市と連携を図ってきた。

今後、札幌市はもとより道内市町村と緊密に連携協力し、地域課題の解決や地域の活性化に資する取組を着実に進め、北海道全体の発展に繋げていく。